

事業名		国営かんがい排水事業	地区名	び 美 蔓
都道府県名	北海道	関係市町村名	おとふけちょう 音更町、しかおいちょう 鹿追町、しみずちょう 清水町、めむろちょう 芽室町	
事業概要	本地区は、北海道十勝支庁管内の河東郡音更町、同郡鹿追町、上川郡清水町及び河西郡芽室町の4町に位置する畑作及び酪農を主体とした4,056haの農業地帯である。 地区の農業は、かんがい施設が未整備で、かんがい用水は主として降雨に依存しており、恒常的な用水不足が生じている。 また、地区内の排水路は断面が狭小で河床が高く、降雨時及び融雪時には湛水、過湿被害を生じている。このような状況から、土地生産性が低く効率的な農作業の支障になるなど、農業経営は不安定な現状にある。 このため、本事業により貯水池及び用排水路を整備するとともに、関連事業により末端用排水施設等を整備し、土地生産性の向上、農作業の効率化を図り、農業経営の安定、地域農業の振興に資するものである。			
	【事業内容等】 受 益 面 積 4,056ha（畑 4,056ha） 受 益 者 数 215人 主要工事計画 貯水池 1箇所（新設） 用水路 60.9km（新設8路線） 排水路 17.9km（改修4路線） 国営総事業費 33,000百万円（平成20年度時点 32,640百万円） 工 期 平成5年度～平成26年度予定 			

評価項目	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 事業の施行に係る地域 現時点で受益地域の変動はなく変更する必要はない。 主 要 工 事 計 画 現時点で主要工事計画を変更する必要はない。 事 業 費 平成20年度における国営総事業費は32,640百万円であり、現計画の33,000百万円から物価変動により 1 % の減となっている。									
	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本地区では、作物生産性の向上と営農経費が節減される効果、従来の施設機能が維持される効果を主な効果として見込んでいる。 現時点においては、妥当投資額、総事業費、投資効率の基礎となる農産物、生乳の価格及び収量は安定した水準を維持している。 関係市町村の農業振興計画等では、「農作物の品質向上に向けた施設整備や試験、調査を実施する。」「機械の共同利用、共同作業による省力化を図る。」等合理的な生産方式と生産性の高い農業経営を確立することとしており、現計画の営農計画に対して大きな変化は認められない。 なお、費用対効果分析の結果は以下のとおりである。									
	<table><tr><td>妥当投資額</td><td>(B)</td><td>42,032百万円</td></tr><tr><td>総事業費</td><td>(C)</td><td>37,982百万円</td></tr><tr><td>投資効率</td><td>(B / C)</td><td>1.10</td></tr></table> 注) 妥当投資額、総事業費には関連事業を含む。	妥当投資額	(B)	42,032百万円	総事業費	(C)	37,982百万円	投資効率	(B / C)	1.10
	妥当投資額	(B)	42,032百万円							
総事業費	(C)	37,982百万円								
投資効率	(B / C)	1.10								
【環境との調和への配慮】 本地区は、北方に大雪山国立公園、西方に日高山脈襟裳国定公園があり、雄大な自然景観を有するとともに、農地に格子状に配置された防風林と畑があいまって、緑豊かな農村景観を形成している。また、本地区の取水河川となるペンケニコロ川には、フクドジョウ、オショロコマ等が生息している。各町では田園環境整備マスタープランにおいて、自然と調和し、生態系の保全に配慮した施設整備、環境整備に努めることとしている。 これらを踏まえ、本事業の施行に際しては、美蔓貯水池周辺の植樹により周辺景観との調和に配慮し、取水施設には魚道及び取水槽からの帰還水路を設置するとともに、排水路にあっては、階段式落差工を設置することにより魚類の生息環境の保全に配慮することとしている。また、学識経験者で構成する美蔓地区技術検討会を設置し、工事による環境への影響及びその対策について検討し、提言を得て施設計画に反映させている。										
	【事業コスト縮減等の可能性】 美蔓貯水池の工事で発生する土砂の他事業利用等、事業コスト縮減を図る予定である。									
	【関係団体の意向】 北海道及び関係町は、地域の農業経営の安定化を図るために、本事業は必要としており、引き続き事業コストの縮減に努め、事業の早期完了を図ることを期待している。									

【評価項目のまとめ】

地域の農業は、東部の丘陵地帯を除き概ね平坦で肥沃な地形的、土壌的条件と地域の気象条件を活かし、広大な農地で、畑作、野菜、酪農及び肉用牛を中心とした専業農家を主体に大型農業機械による大規模土地利用型農業を展開している。その結果、各作目で全道的に大きな生産シェアを占めるなど、主要な食料供給基地として重要な役割を果たすとともに、地域経済の発展に大きく貢献してきた。

しかし、農業の国際化が急速な展開をみせる中、国内においても農畜産物の需要の不均衡、農産物価格の引き下げ基調など生産環境はかつてない状況に直面している。

地域の農業が今後とも地域社会、経済を支える基幹産業として発展していくためには、経営感覚に優れた効率的・安定的な経営体とこれを支える青年農業者や農村女性など優れた人材の育成を基本に、生産の基盤である土づくり、地域の営農条件に応じた合理的な輪作体系の確立、機械・施設の効率的な利用によるコストの低減と品質の向上、情報化システムの活用、農産物の加工による付加価値の向上など生産の合理化を図り、安全で高品質な農産物を安定的に生産、供給できる経営体質の強い産地育成に努める必要がある。

このことから、地域農業における土地生産性の向上や農作業の効率化を図るために、貯水池、用排水路等を整備し、畑地かんがいの導入を行う本事業の必要性は変わっていない。

このため現時点で事業計画を変更する必要はない。

【第三者委員会の意見】

地域の営農実態等からかんがい用水の早期手当てが不可欠であるとともに、環境との調和への配慮に努めた事業推進が必要であることから、再評価結果は妥当である。

【事業の実施方針】

コスト縮減や環境との調和への配慮に努め、平成23年度の完了に向けて事業を着実に推進する。

また、事業効果の早期発現を図るため、関係団体と連携して関連事業の推進に努める。